



建築設備技術遺産

認定第 3 号 巡洋戦艦「金剛」搭載のヤーロー式ボイラー

管理者: 呉市海事歴史科学館

当ボイラーは、重油と石炭の混焼式で英国のヤーロー社が開発し、巡洋戦艦「金剛」(1913年8月13日竣工)に搭載された。このボイラーは20世紀初頭の代表的な艦艇用ボイラーだった。その後、金剛の改修時に撤去され、昭和8年から海軍技術研究所、戦後は(平成5年まで)金属材料研究所にて建物の暖房用ボイラーとして使用された。

ヤーロー式ボイラーは、断面がA字形をしていて、上部の蒸気ドラム(タンク)、その下部に2基の水ドラムがあり、その蒸気ドラムと水ドラムは水管(パイプ)で結ばれているところから三胴水管ボイラーと呼ばれる。

英国から日本へ、海から陸へ、戦艦から建物へという経歴は、日本の初期の建築設備技術が造船技術に負う点が大きかったことも考え合わせると大変興味深い。平成19年度に経済産業省の近代化産業遺産、平成20年度に国立科学博物館の重要科学技術史資料に登録され、現在呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)に展示されている。当ボイラーは、建築設備技術遺産として認定するに値するものである。



巡洋戦艦「金剛」搭載のヤーロー式ボイラー